

特別公開フォーラム

「世界のなかの高岡銅器
未来への歩みにむけて」

21

目的

平成26年度 富山大学 地域連携推進機構 地域づくり・文化支援部門 特別公開フォーラムを以下のテーマ、日時、会場で開催した。I部の話題提供を踏まえて、II部の討論会で議論を深め、会場からの質疑を受けました。

富山県高岡では約400年前に鉄から始まり、銅器へと転換し発展しました。世界でも類を見ない青銅などの銅合金を主とした銅製品が産地となりました。しかし、暖房器具の発達で手焙りが、床の間の減少で花入れが、仏壇の家具調化で仏具が、と銅製品でなければならなかった時代は遠い過去のものとなっていました。

東アジアの青銅器は中国大陸に始まり4千年の歴史を持ち、朝鮮半島を経て、日本列島へ伝わったのは2千年ほど前です。青銅でなければならなかった時代の製品、列島に伝わってからの青銅製品、高岡で地場産業となった青銅製品、日本ではほとんど利用されてこなかった高錫青銅を熱処理した製品など、4千年の歴史のなかの高岡銅器の歴史を俯瞰し、これまでのデザインによる新商品開発とは視点を変えた未来の青銅製品開発を考えることを目的としました。

内容

『世界のなかの高岡銅器 未来への歩みにむけて』

会期：平成26年10月11日（土）14:00～17:00

会場：ウイング・ウイング高岡 高岡市生涯学習センター4階 ホール

●開催挨拶 古池嘉和（富山大学 芸術文化学部 教授：地域文化政策）

<I部：話題提供>

●「四千年前の中国青銅器までさかのぼる高岡銅器」

廣川 守（泉屋博古館 学芸課長：中国考古学）

●「大陸より日本列島に伝わってから高岡銅器まで」

菅谷文則（奈良県立橿原考古学研究所 所長：日本・中国考古学）

●「高岡銅器誕生から明治期を経て今日まで」

大熊敏之（富山大学 芸術文化学部 教授：美術史、工芸・デザイン史、文化資源政策論）

●「高岡銅器に活かせる古代高錫青銅器の熱処理技術」

長柄毅一（富山大学 芸術文化学部 教授：金属材料、文化財科学）

<II部：討論会>

●「高岡銅器 四千年の旅 未来への道」

パネラー：菅谷文則、廣川 守、大熊敏之、長柄毅一

進行：三船温尚（富山大学 芸術文化学部 教授：鑄造技術史）

主催 富山大学 地域連携推進機構 地域づくり・文化支援部門

共催 高岡市、富山大学芸術文化学部、高岡市教育委員会

後援 公益財団法人 富山県ひとつづくり財団、富山県教育委

員会、伝統工芸高岡銅器振興協同組合、公益財団法人

人 泉屋博古館、アジア鑄造技術史学会、工芸史・工

芸技術史研究室（富山大学芸術文化学部内）

本フォーラムは、公益財団法人 富山県ひとつづくり財団の助成事業、県民芸術文化祭2014協賛事業、国立大学フェスタ2014支援事業として開催しました。

成果

会場には高橋高岡市長、銅器産業関係者、富山大学生、金沢美術工芸大学生、一般者などが聴講しました。来場者のアンケートには、「これまで高岡銅器を400年の歴史で語ることは多かったが、東アジア4千年の歴史で捉えることはなく大変興味深かった」、「高岡の地場産業を広い視点で見つめ直すフォーラムなのでっと多くの市民も聴講すべきだ」という内容が多くありました。学生からは、「視野が広がり新鮮だった」という声がありました。今後も、歴史の中に埋もれた古代からの伝統技法や素材から学ぶ研究会を開催し、これまでとは異なる高岡銅器の展開を図っていきたいと考えています。

